

自動順送型プレス金型

金型設計・製作の経験を生かし 産・学・官の力でニーズを深耕

株式会社小西金型工学

<http://konishi-kanagata.jp/>

大阪
21

Company Profile

株式会社小西金型工学

住 所 / 〒579-8014
東大阪市中西石切町6-4-47
創 業 / 昭和43年10月
設 立 / 平成元年5月
資本金 / 1,000万円
従業員 / 11名
T E L / 072-981-3477
F A X / 072-987-8043

■主な事業内容

プレス金型の設計・製造、NC・MC加工、ワイヤ加工、研磨、機械部品加工、プレス加工・試作・量産、2次元・3次元NCデータの作成等

■主な取引先

スチール家具メーカー、空調機器メーカー、デジタル家電メーカー、建築物メーカー、システムキッチンメーカー等



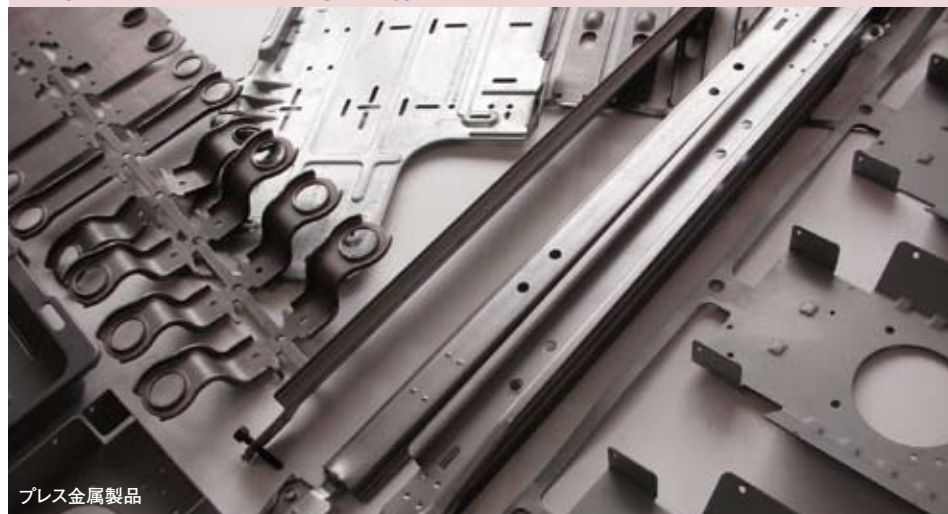
当社のセールスポイント

地域貢献にもかかわって、ものづくりのまち東大阪の振興に一役買います。



代表取締役社長 取締役統括部長
小西 智實雄さん 小西 修史さん

当社はものづくりの大切さを次世代に伝えるために、地元の中学生の職場体験を受け入れています。職場体験は地域社会に貢献できるだけでなく、社員の士気を高めることにもつながります。金型の仕事は、1社だけでは生き残ってはいけません。地域にさまざまな人脈を広げるなかで、ビジネスチャンスを開拓していきたいと思っています。



プレス金属製品

昭和43年に創業した小西金型工学の小西社長は、プレス金型製作の道歩んで50年以上のキャリアを持つ。創業から十数年間はテレビのプラウン管の金型製作を大量に受注して以来創業から延べ1万面以上の金型を設計・製造してきた。

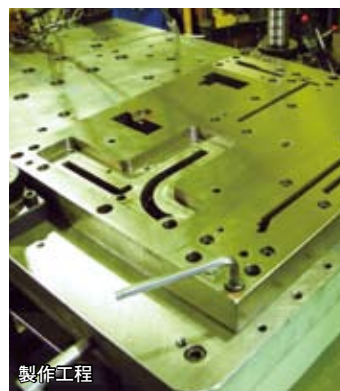
現在の同社は、エアコン、スチール家具、建築金物、デジタル家電など幅広い分野の金型を製作する。その特徴は、作業性の良さと低コスト性にある。受注の多くを占める自動順送型の金型は、ねじ穴を金型で切る設計を行うことで、ボール盤などの工程を省略化。また、ねじ穴を作る際にはキリ粉が出ない自動タップ加工を採用している。

もうひとつの特徴は、メンテナンス性の良さ。金型の破損しやすい形状部分を、分解しやすいブロック式にして、改良時や不具合発生時の対応を迅速にしている。また、金型全体の強度を高めることで、不具合の発生率

省力化、低コストを
実現する金型を設計

地域への幅広い働きかけで
進化するものづくりへ

小西社長の後継者である小西統括部長は金型設計に携わるだけでなく、営業でも積極的な動きを展開。かつて



製作工程

を低くし、長寿命化もはかっている。同社では金型製作の履歴をデータベース化しており、アフターフォローの態勢も万全だ。「先日も25年前に設計した金型を3日かけてメンテナンスしたら、お客さんに『今からまた20年間使います』と言われました。そういう信用の積み重ねが大切だと思っています」と小西社長。

は10社程度だった取引先が現在は約40社に拡大している。最近特に力を入れているのは、産学官との連携だ。

「官」との連携では、大阪産業振興機構や東大阪市のクリエイション・コア東大阪と密接に情報交換をするなかで、大手メーカーの商品開発プロジェクトへの参画を働きかけている。長期的な視野をもって、エネルギー産業などの次世代マーケットとのつながりを形成したいと考えている。

「学」との連携では、小西部長の出身大学である近畿大学の研究機関・リエゾンセンターと協力的な関係を構築。近畿大学と大阪工業大学が中心となった「日本品質管理学会」にも参加し、今後の金型づくりに関する研究に加わっている。

「社長が培った50年を超える金型設計の経験と、私の営業展開、そして学術的な視点とをあわせて、さらに進化したものづくりにつなげたいです」と小西部長。平成21年には金型製作の現場に2名の若手社員を採用、次世代への道筋を着実に踏み固めようとしている。